

津幡町の保健師間及び他職種との連携



源平倶利伽羅合戦の地



石川県津幡町健康推進課
統括保健師 北野智美

■津幡町の概要

令和7年4月現在

- 人口 37,472人
- 面積 110.59km²
- 年少人口 4,817人(12.9%)
- 高齢人口 9,739人(26.0%)
- 地区 7 ・小学校 9 ・中学校 2
- 病院 2(内町立1)
- 医院 29(内科7 外科1 小児科2 整形外科3
皮膚科2 眼科2 耳鼻科1 脳神経外科1 歯科12)
- 認定こども園 10 ・子育て支援センター 6
- 児童センター 1
- 特別養護老人ホーム 2 ・介護老人保健施設 1

加賀・能登・越中の分岐点
平野部は金沢市のベットタウン
三つの山間地域を抱える



■保健師配置部署

庁舎の1階 『健康福祉ゾーン』

地域包括支援センター(福祉課) **保健師 4**

地域包括支援センター長兼統括保健師
保健師3名 社会福祉士3名 作業療法士2名(内会計年度職員1名)

こども家庭センター(子育て支援課) **保健師 3**

こども家庭センター長兼統括保健師(統括支援員) 社会福祉士2名
保健師2名(内会計年度職員2名) 保育士2名(内会計年度職員1名)

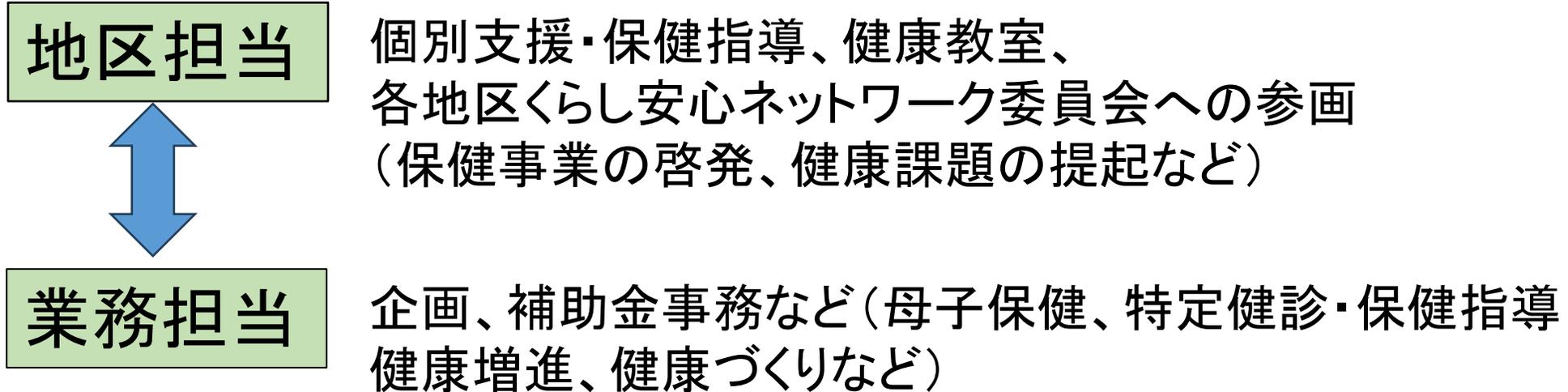
健康推進課 **保健師 9**

統括保健師兼感染症予防係長 母子保健係長 健康推進係長
保健師6名 管理栄養士4名(内会計年度職員1名)



健康推進課の体制

●地区担当制と業務担当制の併用



◎保健師一人が1地区と何らかの業務を担当している

※地区くらし安心ネットワーク委員会とは

全世代型の地域の課題を話し合える場、困りごとに気づき合える・相談できる・支え合える関係づくり

（委員：区長、民生委員、自主防災、防犯、学校、PTA、保護者会、シニアクラブ、ボランティアなど）

■健康推進課の部内協働

●高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施

- ・ポピュレーションアプローチとして地域の通いの場で健康教室において健康推進課の地区担当と地域包括支援センターの地区担当で実施
- ・地域包括ケア推進協議会介護予防部会への出席

●こども家庭センターの母子保健機能として一体的に実施

定期的な事例検討会、随時にケース会議、日頃から情報共有

●自殺予防対策（こころの健康づくり・ひきこもり支援含む）

計画の策定及び推進

●庁内相談担当者連絡会

相談支援する専門職（保健師、社会福祉士、作業療法士、管理栄養士）が事例検討会を通して相談援助技術の力量アップや相談支援の体制の構築

■健康推進課の部内連携

●自立支援協議会(こども部会)への出席

障害児・医療的ケア児支援のための自立支援協議会(こども部会)への出席

●管理栄養士の地域包括支援センターとの連携

- ・地域ケア会議への出席
- ・介護予防メイト養成講座の講師

●地区くらし安心ネットワーク委員会への参加

- ・3課の地区担当の保健師、社会福祉士が参加

■保健師活動について協議する場

- 係長級以上の保健師が定期的に連絡会を実施（月1回）**
 - ・保健師人材育成マニュアル作成など人材育成、人員配置に関すること
 - ・災害時のアクションカード作成など災害に関すること
 - ・各課の課題など情報共有
 - ・県の能登半島被災者健康調査後の被災者支援
 - ・依頼された救護の割り振り

- 保健師全員参加の連絡会を実施（年2回）**
保健師の交流、保健師活動の振り返りができるワークなど

■ 地域包括支援センターの地域づくりの体制

● 毎朝のミーティングでの多職種協働

- ・ 前日の新規ケース共有、困難事例の方向性検討
- ・ 医療職（保健師・作業療法士）と福祉職（社会福祉士）ペアでの地区担当制

● 地域個別ケア会議

個別課題の解決、地域包括支援・ネットワークの構築、地域づくり・資源開発、政策の形成

● 公民館単位の地域づくり（平成21年～）

認知症を切り口に始まった「地区くらし安心ネットワーク」は地域の多様な人材がみんなで地域を支え考える場となっている